古里住民自治協議会だより　令和2年 8月15日 (1)

いきいきふるさと

発行／古里住民自治協議会　発行者／金子　祐三　編集／広報委員会　第61号

北レクより眼下に緑の古里を望む

防災特集

7月はじめから長期間、断続的に続いた大雨は、熊本をはじめ北九州から本州の広範囲に及び、河川氾濫、土砂崩落などにより、多くの方が亡くなられました。長野県も南部を中心に土砂崩れが相次ぎました。被災された地域の皆様に心よりお見舞い申し上げます。本号では、今一度、昨年10月の台風19号災害を振り返り、防災についてお知らせします。

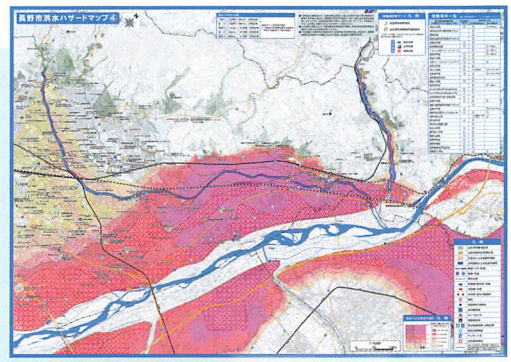
「防災・減災」危険度の認識と具体的行動

古里住民自治協議会 会長　金子 祐三

昨年の台風19号災害以降、防災・減災に対する備え、防災行動などの冊子や書物を目にする機会が増えたと感じております。災害に備えその対策を実行していかねばならないと思っている方が多いと思いますが、具体的に何をどう実行するかというと漫然と捉えている方が結構おいでと思います。また、災害に遭遇しても「自分は大丈夫だろう」「自分の家は大丈夫だろう」という意識は自分も含め大勢の方がお持ちと思います。古里住自協として古里地区の皆さんに、この地区としてより具体的な防災・減災の方法、手段をお示しすることが必要と考えておりますが、災害には水害、地震災害、土砂災害などがあり、それら個々に想定すると、具体的にお示しすることが如何に難しいことかを痛感しております。いつ発生するか想定出来ない災害ですが、出来る限りの備えと訓練をして、いざという時に役立つものにしたいと思っています。

以下は住民の皆さんに常日頃から心掛けて頂きたい項目です

1. 自分の住んでいる地区、場所での災害の危険度を知る
   ハザードマップ　防災マップ　地区別防災カルテ(長野市ホームページ)
   周辺情報(活断層　河川の水害　土砂災害など)
2. いざという時の避難場所(避難所)移動手段と経路を確認
3. 災害発生が予想される前後の情報を知る
   雨量　河川の状況　警戒レベル(1～5)
4. 自助、近助、共助の精神で
   自分と家族を守るのが第一　近所の助　お互いの協力(共助)
5. 防災訓練、防災講演会など防災イベントには是非参加を
   各区自主防災会の防災訓練に是非参加を～住民の皆さんの参加型で


長野市洪水ハザードマップ④

本年度は従来以上に災害に対する住民の皆さんの意識の向上と防災体制の見直しを行い安心・安全なまちづくりに取組む予定です。確実な情報伝達、自主防災会での役割の分担と明確化、各団体との連携確認と役割の明確化、安否確認を確実に行う方法、災害時の必要備品の確認などが大切と考えております。災害発生時は皆さんお1人お1人がより安全な行動をお願い致します。

いざというときにそなえを

古里支所長　増田 泰男

避難所に配備されたダンボールベッド

昨年の台風19号災害では、古里総合市民センターも急遽、避難所として、また被災地最寄りの行政機関として24時間体制で対応にあたりました。近年頻発する豪雨災害から、長野市でも千年に一回程度の豪雨を想定したハザードマップをお配りした直後の災害発生でした。「千年に一回」との表現は、千年後に起こるのか、明日起こるのかはわからないが、起こる可能性があるということです。残念ながら、昨年はまさにそのとおりとなってしまいました。これは昨年起きたから今後は起きないということではありません。いつ起きてもおかしくない大きな危険があることを理解し、いざという時のために「備えること」が大切です。先頃お配りした広報ながの8月号に、防災に関する記事と共に「我が家の避難行動確認シート」が載っています。まずは、ご家族皆さんで相談しながら、ぜひ、記入してみてください。災害の種類ごとに避難行動を確認いただけます。昨年の経験を活かし、防災について改めて取り組み始めた古里住民自治協議会と協力して、安心・安全なまちづくりを進めてまいります。

令和元年10月 台風19号災害を顧みて

下駒沢区 区長　小林 信重

「金箱方面の畑」

13日早朝5時頃リハビリセンター南側が冠水しているとの一報が入り現場に急行すると、既に膝位まで冠水し側溝の蓋から水がボコボコと噴き出していました。近所の皆さんもこの状況を見て「そろそろ止まるんじゃないか」と、まだ緊迫感はありませんでした。しかしその後も水位があがり6時には本通りまで達しました。近くの家を回り避難を促しましたが、日曜日の早朝まだ寝ているお宅もありました。6時45分公民館に災害対策本部を設置し、集合した役員で情報収集と伊勢社の区入口で車両の進入を止めました。

「下駒沢住宅地」

停電は区内全域で六時半頃発生、冠水しなかった一部で解消したのが午後4時頃、その後も多くの世帯で停電が続き公民館を含めほぼ復旧したのは3日後でした。11時過ぎに浅川内水氾濫の危険から全戸に避難指示が発令され、車に拡声器を積み区内に避難を促しましたが、避難場所が東部中学校との事で避難された方は18名でした。水が引き始めたのは12時頃、冠水高さはリハビリ南側で約1.5mに達しました。幸い人命に関わる被害はありませんでしたが、避難が遅れヘリコプターやボートで30名以上が救出され、140戸を超える世帯で床上・床下浸水の被害が発生しました。

初めての体験とは言え訓練とは違い災害対策本部が組織的に行動できなかったことが一番の反省点で、これを教訓に今後はより実践的な備えをしたいと思います。

三才区 防災指導員　村松 眞

「浅川」

13日の朝5時30分、三才の東方浅川にかかる五反田橋から、さらに東方を見渡す光景は、私もこの地へきて30年になりますが、はじめてのことでした。未明に千曲川の堤防を越えた川水は豊野地区から赤沼の新幹線保管区そのとなり穂保地区一帯へ広がり、家屋の2階近くまで黒い泥水が海のごとく波を打って浸水し、救助のヘリコプターがホバリングで家屋の2階から助けを求めている人々を救出している様子も確認できました。そして眼前の北部工業団地も、駐留している数々の重機がみるみるうちに腰高まで浸水するに及んだのです。さらに、内水氾濫した浅川の川水は三才の東方畑地、一部宅地まで及びました。

「田子川」

あのとき、11時過ぎに避難指示がでて、避難誘導に当たった区役員の方、避難に赴いた区民の方、皆々必死でした。むろん戸惑いもありました。区長は避難誘導にあたるとともに、避難所全てを回り、安否確認と状況説明にあたりました。また、その夜は区内の見回りもしていただきました。区民は最初、避難すべきか否か、避難場所はどこかなど分からないこともありましたが、みんな賢明に判断したことと思います。私も、夜は区内を見回り、相良線から新幹線高架に9時ころからいたところ水がみるみるうちに引いていくのが確認でき一安心しました。どこでも起こり得る災害に対し、しっかりと備え、訓練していかなければならない。私も、地域の防災指導員として決意を新たにしているところです。

長野市赤十字奉仕団古里分団　令和元年度委員長　中村 敦子

「避難所となった北部レクリエーションパーク」

10月13日早朝の区長からの呼び出しで始まった北部レクリエーションパークでのボランティアはその後、市からの要請となり、12月5日まで54日間に及びました。避難者は200人以上。清掃、食事配布、衛生管理を3交代で賄うため、赤十字奉仕団古里分団だけでなく長野市中の分団、自主的にお手伝いしてくれた個人、団体の皆さんが活動してくださいました。

長野市消防団古里分団長　高橋 寿

10月13日の災害発生当日、消防団古里分団では団員を招集、45名が出動して避難指示発令の際は下駒沢、三才区での避難誘導広報、各地区の浸水被害状況の調査、交通整理、翌日からは浸水して路上に堆積した障害物撤去、浸水被災を受けた地域での復旧活動を行いました。今回の災害を経験し、改めて地域防災の重要性、住民自治協議会や各区の自主防災会との連携、非常時における情報共有の必要性を再認識しました。今後は防災・避難訓練等を通じ、地域の皆様の協力をいただきながら、より一層の緊密な連携を図り、防災・減災、また非常時の対応力の向上に取り組んで参ります。

アマチュア無線クラブ「ネット古里」代表　小林 茂樹

当クラブでは、「非常災害時アマチュア無線ネットワーク」を構築して、"いざ災害時"には、即活動できるようにしています。13日夜明けとともに会員数名が下駒沢・三才地区の浸水状況と浅川の水位上昇について情報を発信してくれましたので、住自協事務室に常置のキー局をただちに開局し、地区内の情報集収を開始するとともに住自協本部への情報伝達を開始しました。その後千曲川決壊による下駒沢地区家屋への床上浸水発生、浅川下流域での越水で三才地区の浸水拡大などの重大な事態になりましたが、この間、被害状況を現地配置の会員個人無線局と連絡を取りつづけました。平成19年にクラブ発足以来、地区防災訓練に積極的に参加するなど地域防災体制の確立に情報連絡隊として支援してきましたが、今回の経験も踏まえ、"いざ災害時"に一層機能できるよう努めてまいります。

令和2年度　古里住民自治協議会の取組みについて　安心・安全部会長　小林 正樹

「安心・安全防災マップ」の作成　いきいきふるさと「安心・安全防災」事業

昨年の台風19号・千曲川決壊で古里地区は大きな被害を受けました。この災害を契機に、古里地区における防災・減災事業について見直しを行いたいと思います。これにより、一層の安心・安全なまちづくりを目指します。具体的には、「安心・安全防災マップ古里版」の改訂・作成を考えています。この検討を行っていく中で、防災訓練など幅広く「今後の防災・減災の取組み」について考えていく予定です。なお、現在の「安心・安全防災マップ」は平成25年度に全戸配布を行いました。

「今後の防災・減災の取組み」の検討においては、次の点を考慮します。

- 今までの古里地区の防災計画の多くは地震・火災等が中心で、水害への対応は僅かでした。今回の検討では、水害も盛り込むこととします。
- 今回の検討では、昨年の台風19号・千曲川決壊だけではなく、平成29年7月に古里地区を襲った集中豪雨についても考慮することとします。
- 実際の防災・減災は、各区の自主防災会の活動が中心となります。従って、今後の防災・減災は、各区の自主防災会と一緒になって取り組んでいく必要があります。また、住民皆様方のご協力が是非とも必要です。
- 「災害に対する住民意識の向上」のためには、「対策の習慣化」と「事前の行動力」が重要と言われていますので、この点を考慮します。
- 大規模な避難行動は、最近では、昨年の災害での避難が初めてです。この実際の避難行動の中から教訓を得たいと思います。

「今後の防災・減災の取組み」の検討、見直し等の項目は、次のとおりです。

- 「安心・安全防災マップ古里版」の見直し、作成、全戸配布
- 防災訓練の見直し、自主防災会の取組み検討
- 防災講演会の開催、住自協災害対策本部の見直し

皆様方には、防災・減災について、住民自治協議会事務局または各区の区長まで、ご意見をお寄せいただければと思います。この「安心・安全防災マップ」の作成は、ながのまちづくり活動支援事業の助成を受けています。

現在の安心・安全防災マップ

7月19日(日)

長野市古里水防倉庫に於いて、各区へ「土嚢」の引渡しが行われました。3密を避けるため、引渡し区(富竹以下5区)の時間割をして総数90袋の土嚢が引き渡されました。

8月22日(土)

古里総合市民センターに於いて、住民自治協議会の防災訓練が実施されます。3密を避けるため、住自協災対本部への参集を少人数とし、市民センター前での訓練実技は行いません。

地域の皆様と共に

鶴賀消防署柳原分署長
岡澤 憲男

昨年の「令和元年台風19号災害」では、長野市に甚大な被害が発生し、古里地区の一部にも浸水等の被害が発生しております。皆様方もこの災害を経験され、水害はもとより、改めて自然災害に対する緊張感を持たれたことと思います。そして早くも1年が経とうとしておりますが、皆様のご家庭では、災害に備えて避難方法の確認、非常持ち出し袋等の確認はお済みでしょうか。また、警報等が発表された際に、各ご家庭の位置的な特性など、状況に合わせた避難開始時期や避難先を決めていますでしょうか。災害はいつ発生するかわかりません。普段からの準備を心掛けていただき、もし、災害が発生した場合には、昨年の経験を生かして早期に避難するなど、被害を最小限に抑える対応をとっていただくことをお願いします。

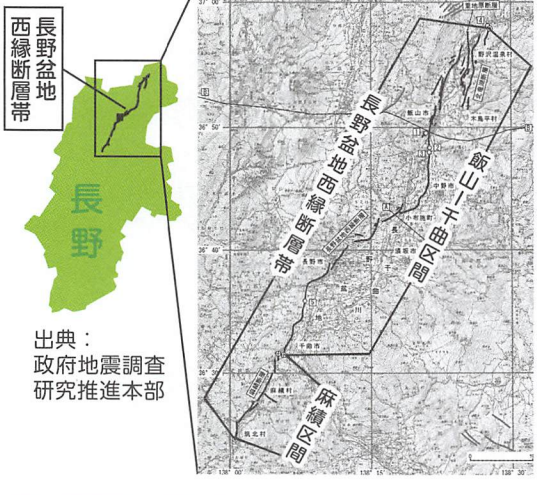
この春に東北交番所長に着任致しました小林です。今後も自然災害の発生が予想されます。災害時に一番大事なことは「命を守る」ことです。災害が発生するおそれがある時に「避難情報」が発令されます。避難情報は、災害が発生する虞（おそれ）がある時に「避難準備・高齢者等避難開始」、災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合に「避難勧告」、災害が発生していてもおかしくない極めて危険な状況の場合は「避難指示（緊急）」が発令されますが、必ずしも、この順番どおりではないので注意して下さい。避難情報が発令されたら、安全な場所に避難することが肝心です。次に「非常持ち出し袋」を用意することも必要です。袋の中には、飲料水や食料、常備薬等、有れば良いと思う物を入れて持ち出すようにして下さい。東北交番勤務員は、地域の皆様と心を一つにして仕事をさせて頂きたいと存じます。宜しくお願い申し上げます。

東北交番所長
小林 和春

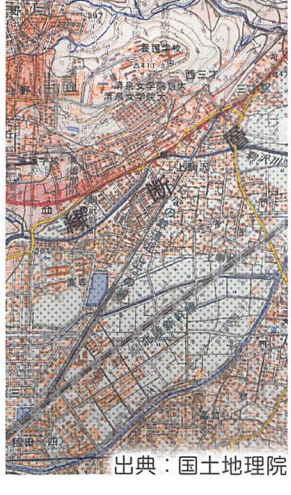
防災基礎知識　風水害　警戒レベルとの関連

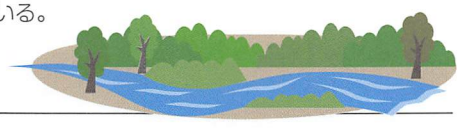
警戒レベル	1	2	3	4	5
状　況	大雨発生の可能性	重大災害の兆候	重大災害の恐れ	重大災害 発生確率大	災害発生
気象 情報	早期注意情報 （警報級の可能性あり）	大雨注意報 洪水注意報 河川氾濫注意情報	大雨警報・洪水警報 河川氾濫警戒情報	大雨警報・洪水警報 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報	大雨特別警報
避難情報	早期注意情報	注意報	避難準備 高齢者避難開始	避難勧告 避難指示（緊急）	災害発生情報
住民がとるべき行動	災害への心構え	避難行動の確認	高齢者等避難	安全な場所へ 全員避難	命を守るための 最善策

地震　長野盆地西縁断層帯（信濃川断層帯）



出典：
政府地震調査研究推進本部



出典：国土地理院

地震の要因である活断層は、長野県内には主として6あり、そのうち、県北部に位置する長野盆地西縁断層帯は、野沢温泉村～中野市～長野市～千曲市にかけての約59ｋｍと、千曲市～筑北村にかけての約15ｋｍから構成される。この断層は、長野市では豊野～古里～県庁方面にかけて位置し、1847年には善光寺地震（M7.4）が発生し、多数の死者、家屋倒壊、土砂崩れが起きた。地震調査研究推進本部（政府機関）では、この断層帯（飯山－千曲区間）の将来の活動について、活動間隔を8百～2千5百年程度の可能性（最新善光寺地震）、活動規模をM7.4-7.8程度と推定している。